

ぐんまで頑張る職業人の熱意をレポート!

柴崎龍吾の課外授業

Vol.35

うすい学園代表取締役の柴崎龍吾が街に飛び出して、元気に働く人にインタビュー。子どもたちのために、職業の多様性や働くことの意味を毎月レポートしていきます!



エフエム群馬にてインタビュー内容を放送中! 毎週月曜 ワイド番組「ユウガチャ!」内 16:41頃〜



うすい学園代表取締役 柴崎龍吾
大学在学中に劇団を主宰し、卒業後は放送作家として活動。1975年に個人塾「横川学習塾」を開校し、以降、うすい学園を展開。子育てや教育に関する著書多数、ラジオ番組出演中。

今月の職業人

富岡警察署 副署長 高橋 添さん



▲桐生市出身。難しい任務の際は、家族や周囲の人々からの支えに何度も助けられたと頼を綴める
◀1983年に拝命。2005年に警部補昇任後は、県警本部捜査1課、高崎署生活安全課長などを経て今年3月から現職。12~14年は、年間100件近く開かれる女学生向けの性犯罪防止教室にも携わる。群馬県内で増加している自転車事故の防止にも努めていきたいと話す

女性警察官ならではの心配りと安心感を大切に

柴崎 今回の場合は、群馬県警察では初の女性警視のお一人、富岡警察署の高橋添副所長にお話を伺います。まずは、警察官を志したきっかけを教えてください。

高橋 とにかく、世の中の役に立ちたいという強い思いから、警察官への興味が芽生え、20歳の頃に訓練校の採用試験を受けました。女性だからこそできる仕事もあると奮起しましたが、当時は周囲から珍しがられましたね。

柴崎 警察学校卒業後は、どのような部署に配属されたのでしょうか?

高橋 私は組織の中でも特に近隣住民との関わりが深い地域部として、高崎市内の交番へ配属されました。定期巡回や学校訪問を通し、地元の方々と家族のよう

に仲良くなれたことは私の誇りです。柴崎 交番は、日本独自のシステムですね。市民を守る警察官が身近にいるのは、安心安全につながりますし、世界に誇るシステムだと感じます。

高橋 そうですね。警察が親身に感じられる環境はすごく大切だと思います。その後、前橋警察署で生活安全課の少年係に就任した際も、非行少年と顔なじみになるのが、いかに大切かを何度も痛感しました。少しずつ家庭の事情などを理解していくことで、子どもたちとの距離が近づくんです。より話しやすい環境作りを心掛け、女性ならではの視点は常に忘れないようにしていました。

柴崎 女性ならではの視点というと、例

えは何が挙げられるでしょうか。

高橋 少年に限らず、いろいろな事件が日々を飛び交うなか、ちょっとした相談事さえ躊躇してしまう被害者もたくさんいます。そんな方々の思いを汲むのは、我々女性の方が向いていると感じます。特に性犯罪の被害者にとって、痛みに寄り添える味方の存在がとても重要。嬉しいことに、警察署に女性がいてほっとするという声は、頻りにいただいています。

柴崎 確かに男性にとっても、女性がいると話しやすい雰囲気になりますね。現在、富岡署内では何人の女性警察官が働いているのでしょうか?

高橋 全97人の署員がいるなか、私を含め5人です。最近では徐々に増えてきた印象です。なかには刑事部に配属され拳銃を扱う厳しい現場もありますが、そこは性別関係なく、市民の平和のために戦っています。

柴崎 責任感が求められる、大変な仕事ですよ。そんな若い警察官に向けて、アドバイスをお願いします。

高橋 群馬を守っていくという心意気を持って欲しいですね。私も引き続き地域の安全へ目を配り、互いに協力し合って防犯に努めていければと思います。当署でも、やる気があり、元氣のある方は男女問わずたくさんいます。より多くの現場に出て、チームと接し、経験を積んで、住民から信頼してもらえる存在になってくれることを期待しています。

柴崎 困った人のために何ができるかを第一に考え、ありがとと言うてもらおうことが最高に幸せな瞬間と話す高橋さん。その姿からは、市民を守る警察官としてのプライドと力強さ、同時に誰からも信頼される女性らしい優しさが垣間見えました。それではまた次回!

